

保育者教員養成校における領域「表現」と
小学校科目「音楽」を繋ぐ現状と課題

—コダーイシステムに着目して—

石川ますみ・岩崎 佳子

Present Situation and Problems Connecting the Region of Expressions
and Elementary Music in Training Nursery School Teachers
—Using Kodaly System—

Masumi Ishikawa, Keiko Iwasaki

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別 冊

平成 30 年 2 月 28 日 発 行

保育者教員養成校における領域「表現」と 小学校科目「音楽」を繋ぐ現状と課題 —コダーイシステムに着目して—

Present Situation and Problems Connecting the Region of
Expressions and Elementary Music in Training Nursery
School Teachers
—Using Kodaly System—

石川 ますみ 岩崎 佳子
Masumi Ishikawa Keiko Iwasaki

はじめに

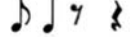
新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、明確な視点を保育者に求めている。即ち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「個々の子どもの発達をどのように援助するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」¹⁾ という視点に基づき教育を改善・充実していく必要性である。これについては、「わが国の現状においては、保育所・幼稚園での音楽活動の質や量の格差が顕著であり、就学前教育における音楽活動と小学校における音楽教育とは、非連続である。」²⁾ (三村・吉富・北野、2008) と述べているとおりである。また、「音楽教育においても、音楽の表現・感受や理解は発達段階に応じて深められる。日本における体系的な音楽教育課程については、日本学校音楽教育学会が、幼稚園から高等学校までの音楽教育について「人と地域と音楽」・「音楽の仕組みと技能」・「音楽と他媒体」を柱とした、緻密なカリキュラムとプログラムを提案している。しかしそれは、幼児期における音楽表現の具体的な展開にまで踏み込んだものでないため、実践面での困難が想定される。」³⁾ (無藤・吉永、2016) という指摘もある。就学前には統一された教材が存在しないため、各教員の力量に委ねられているわが国の現状と課題を明らかにし、新教育要領に沿った教育の方法を探る。保幼小連携が制度化されているハンガリーのコダーイシステム (Kodaly System) にも着目する。

1. 小学校1学年教科書2社の比較

「実際の音楽教育の内容と指導法を探るためには、カリキュラムや教科書や指導書などに着目することが重要である」⁴⁾ (三村・吉富・北野、2008) ことを踏まえ、就学前教育における領域「表現」から学校教育における教科「生活」「音楽」「図画工作」への接続を考察するにあたり、今回は、小学校1学年の音楽の教科書2社を分析した。はじめに、

各社の使用曲の中の音楽の要素、「拍子」「調性」「小節」「音域」「和音」「記号」「備考」の項目を調べた。結果は次のとおりである。

図1 G社

曲名	拍子	調性	小節	音域	音符・休符	和音	記号	備考
ひらいた ひらいた	$\frac{2}{4}$		12	ミーレ				わらべうた
かたつむり	$\frac{2}{4}$	ハ長調	12	ドード		I V		
じゃんけん ぼん	$\frac{2}{4}$	ヘ長調	16	ドーレ		I IV V		カステネット
みんなで あそぼう	$\frac{2}{4}$	ヘ長調	16	ファード		I V		
しろくまの ジェンカ	$\frac{2}{4}$	ヘ長調	48	ドーレ		I IV V	臨時記号 スタッカート D.C.Fine タイ	形式 借用
ぶんぶんぶん	$\frac{2}{4}$	ヘ長調	12	ファード		I V		形式 ABA タンブリン
うみ	$\frac{3}{4}$	ト長調	8	レーレ		I IV V		
たのしく ふこう	$\frac{2}{4}$	ヘ長調	8	ミーシ		I V	臨時記号 #	シンコペーション 鍵盤ハーモニカ 色々な音を出す
どんぐりさん のおうち	$\frac{2}{4}$	ハ長調	8	ドーン		I V		ド、ソ 鍵盤ハーモニカ
なかよし	$\frac{2}{4}$	ハ長調	8	ドーラ		I IV V		ド～ソ 鍵盤ハーモニカ

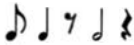
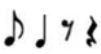
ひのまる	$\frac{2}{4}$	へ長調	16	ファーレ		I IV V		
はるなつ あきふゆ	$\frac{2}{4}$	へ長調	8	レーシ		I IV V		かしを大切に
きらきらぼし	$\frac{4}{4}$	ハ長調	12	ドーラ		I IV V		形式 ABA 鉄琴
やまびこ ごっこ	$\frac{4}{4}$	ハ長調	12	レード		I IV V		呼びかけとこたえ
どんくるりん ばんくるりん	$\frac{3}{4}$	ハ長調	12	レード		I IV V	D.C. Fine	合奏タンブリン、鍵盤ハ ーモニカ、形式 ABA トライアングル
こいぬの マーチ	$\frac{4}{4}$	ハ長調	24	ドーラ				合奏、リズム伴奏、ABA 鍵盤ハーモニカ
あいあい	$\frac{4}{4}$	ハ長調	16	ドーレ		I IV V		シンコペーション 呼びかけとこたえ
おちやらか ほい	$\frac{2}{4}$		12					わらべうた
どれみで のぼろう	$\frac{4}{4}$	ハ長調	10	ドード		I IV V		シンコペーション 鍵盤ハーモニカ

図2 K社

曲名	拍子	調性	小節	音域	音符・休符	和音	記号	備考
かもつれっし ゃ(おんがく にあわせて)	$\frac{4}{4}$	へ長調	8	ファ～レ		I IV V		じゃんけん
ひらいたひら いた(おんがく にあわせて)			12					わらべうた
かたつむり (おんがくにな あわせて)	$\frac{2}{4}$	ハ長調	12	ド～ド		I V		
ぶんぶんぶん (リズムとな なかよし)	$\frac{2}{4}$	へ長調	8 (12)	ファ～ド		I V	D.C., Fine	「たん」と「うん」 リズム、はくのながれ
しろくまのジ ェンカ(リズム となかよし)	$\frac{2}{4}$	へ長調	32 (48)	ド～レ		I IV V	D.C., Fine ナチュラル スタッカート	「たん」と「うん」
わくわくキッ チン(リズムと なかよし)	$\frac{4}{4}$	ハ長調	17 (25)	レ～ド		I IV V	リピート記号	「たん」と「たた」、速 度変化
うみ (につぼ んのうたみん なのうた)	$\frac{3}{4}$	ト長調	8	レ～レ		I IV V		

どれみのキャンディ(どれみとなかよし)	$\frac{4}{4}$	ハ長調	20 (34)	ド～ド		I IV V	タイ1番、2番 かつこ	
まほうのど(こんにちば鍵盤ハーモニカ)		ハ長調	8	ド		I		「ど」「うん」音の長短
あのね (こんにちば鍵盤ハーモニカ)		ハ長調	16	ド～ミ		I V		「ど」「れ」「み」 「うん」音つくり
どんぐりぐりぐり (こんにちば鍵盤ハーモニカ)		ハ長調	16	ド～ソ		I (V)		「ど」「れ」「み」 「ふぁ」「そ」 「うん」
ひのまる (こんにちば鍵盤ハーモニカ)		ハ長調	16	ド～ラ		I IV V		「ど」「れ」「み」「ふぁ」 「そ」「ら」「うん」旋律 フレーズ
すずめがちゅん (ようすをおんがくで)		ハ長調	8	ド～ソ		I V		「ど」「れ」「み」 「ふぁ」「そ」 「うん」
もりのくまさん (ききあってあわせて)	$\frac{2}{4}$	ハ長調	16	ド～ド		I IV V	シャープ	呼びかけとこたえ
フルーツケーキ (ききあってあわせて)	$\frac{3}{4}$	ハ長調	16	ドーシ				シンコペーション呼びかけとこたえ
きらきらぼし (音のスケッチ)	$\frac{4}{4}$	ハ長調	12	ドーラ		I IV V		ド～ソ 鍵盤ハーモニカ

おおきなかぶ (おんがくランド)	$\frac{4}{4}$	ハ長調						リズム 形式、音楽づくり
アイアイ (おんがくランド)	$\frac{4}{4}$	ハ長調	16	ドーレ		I IV V		シンコペーション
わははたいそう (おんがくランド)	$\frac{4}{4}$	ハ長調	8	ドーレ		I V		ことばあそび ハヒフヘホと笑い
ふしぎなポケット (おんがくランド)	$\frac{2}{4}$	ト長調	24	レーレ		I V	リピート	ABA 音楽のニュアンス
どんなゆめ (おんがくランド)	$\frac{4}{4}$	ヘ長調	12	ドーレ		I IV V	スタカート	
ボンボンポツ ツブコーン (おんがくランド)	$\frac{2}{4}$	ヘ長調	適宜 繰り返し 返す	ミーレ		I IV V		リズム
おとのマーチ (おんがくランド)	$\frac{4}{4}$	ヘ長調	20	ドーレ		I IV V	ナチュラル、 D.C.Fine	音さがし 補足リズム
こぶたぬきつねこ (おんがくランド)	$\frac{4}{4}$	ヘ長調	16	ミーレ		I IV V	1 番 2 番かつこ	アウフタクト 呼びかけとこたえ
まねっこうた (おんがくランド)	$\frac{2}{4}$	ハ長調	20					シンコペーション 音楽づくり

おんがくのおくりもの (おんがくランド)	$\frac{2}{2}$	ハ長調	80	レーレ	
-------------------------	---------------	-----	----	-----	--

以上分析の結果、4曲中3曲の共通教材については2社間に差異はなかったが、「ひのまる」に関しては、G社は歌唱のみの指導であったが、K社は「ど」「れ」「み」「ふあ」「そ」「うん」の理解と、そのための移調による歌唱指導となっている点に違いが見られた。その他の曲についても、能力技能獲得のための導入の仕方が、2社において異なっていた。G社においては、歌と楽器の組み合わせで指導が展開されているのが特徴であり、K社においては、音楽の要素を学習する前に、実技の曲や鑑賞曲をまず聴いて、心で感じ体で表現する指導を担っている点が特徴的であった。リズムパターンも工夫されており、オノマトペと言葉を使って、四分音符と八分音符の違いを明確に表現している。また、音階の紹介では、まず体で表現しハンドサインで音高を感じた後、音名を紹介するなどし、聴いて、感じて、表現するという、幼児期までに育ってほしい姿に沿った指導となっていた。しかしながら、「わが国の小学校音楽科教育では、楽譜上の音を認識することさえままならず、ましてや聴覚に頼らずに、視覚的に捉えた音を音高正しく再生できる児童は数少ないと言わざるを得ない。」⁵⁾と指摘される現状がある。ハンガリーの音楽教育に学ぶことの1つは、就学前教育から子どもに与えられる音楽的情報量の多さとその必要性である。目指される主要な音楽的能力は、3歳児から5歳児にかけて徐々に高度になり、小学校1年生でさらに高度で広範囲に及ぶものとなる。就学前では、体験をとおして感覚的に音楽的能力を習得する。小学校1年生では、それらを基礎として楽譜学習が始まる。例えば、就学前教育で歌をたくさん歌うことによって、自然に音と音の隔たりの感覚（音程感）が蓄積される。⁶⁾また、就学前教育と小学校間で音楽教育に関する目標と方法が同一であるがゆえに、連携のしくみが強固で系統性がある。⁷⁾というハンガリーのコダーイシステムについて探る。

2. ハンガリーにおけるコダーイシステム

今日のハンガリーの音楽教育に引き継がれているコダーイの理念は、次のものである。「1音楽は万人のもの」「2歌唱の重視」「3民族音楽の重視」「4ソルフェージュ教育の重視」「5一般学校教育の重視」⁸⁾。教育システムにおいて、ハンガリーでは就学3年前から一貫して統一されている。2014年より、3歳から16歳までが義務教育になっており、その義務とは、「国には幼児期の子供の発達をより具体的に保障する義務がある」⁹⁾、という意味においての義務なのである。「どこでも共通しているのは、幼児保育園の「大きいクラス（主に5歳児）」の後半5月ごろ以降に子どもたちが小学校の見学に行くこと、また、小学校1年生になった子どもたちのようすを担当だった保育士が見に行く点です」¹⁰⁾と記されているように、具体的なサポートが日常に生きているのである。幼児保育士は「教育者として認識されており、小学校の低学年の教師と同じ学部へ属し、基本教科は共通している。国内の保育士養成校の数も限られており、適性テストに合格し、一定の学力のある人だけが入学できる。」¹¹⁾

乳児保育士の適正テストで、「面接で、主に言葉（会話のテンポ、発音など）に関する状態を見られる」¹²⁾ことなどは、乳児保育士に高い水準が求められる現状と同時に、音や言葉が乳幼児に及ぼす影響がいかに重要視されているかが伺える。ハンガリーの乳幼児教育のなかで、「音楽・わらべうた」は、重要な教育の道具としてとらえられている。「学生がこの分野に大きな課題があり、成長の見込みがない場合は、入学試験を受けることすら出来ない。」¹³⁾保育者にこのような能力が課せられるのは、子どもたちの学びが「模倣」にあり、それゆえに「運動発達」や「言語発達」は重要な役割を持つと認識されているからである。一方、日本における教員の現状を津田の報告で見てみる。全国の小学校教員に実施したアンケートでは、音楽づくりの課題として以下のような問題点が挙げられている。「時間がかかりすぎる。時間がない。」「教科書をこなすので精一杯」「系統性をもった指

導ができない」「旋律を伴う音楽づくりのあり方がわからない」「指導する題材等に教師自身のバリエーションがない」¹⁴⁾などである。小学校の現場の教員の実態がこれである。であるならば、これらの問題点の改善にあたっては、保育者養成校での系統的な学習と全人格的な養成にかかっていると言えよう。

3. 保育者養成校における意識変容

保育者養成校における学生の表現活動に対する意識変容の一例を、ここで確認してみたい。身体表現、音楽表現、言語表現のそれぞれの表現活動に対して、得意・好きなど4つの視点から5段階 自己評価の平均値とその増加量を石川らが調査したところ、③身体表現：この表現方法は保育者として必要な技術だ、⑦音楽表現：この表現方法は保育者として必要な技術だ、⑧音楽表現：自分はこの表現方法を身につけている、に関しては増加量が0.15以下となっている。しかし、事前、事後ともに平均値は4.5以上であり、学生が授業前からすでに表現活動が保育者にとって必要な技術であると考えられており、授業後もその考えは変わらなかったことがわかる。また設問①身体表現：この表現方法が得意だ、⑤音楽表現：この表現方法が得意だ、⑥音楽表現：この表現方法が好きだ、に関しては事前の平均値が2.95以下だがそれぞれ増加量は0.40以上となっており、事後の平均値はそれぞれ3.30以上となっている。身体表現、音楽表現、言語表現のそれぞれの表現活動に対する授業前と授業後の意識変容は、学生の表現の幅を広げ、意欲の向上につながっているのである。¹⁵⁾

4. 今後の課題

養成校において、意識変容は出来ていることは上記の調査で確認出来た。わが国とハンガリーの現状の決定的な違いは、ハンガリーにおいては「保育園でも学校でも、お話や詩、わらべうたや音楽、文学（母国語教育）を大事にし、民族の伝承や手工芸品をとおして昔の生活やその価値を伝えようとする背景に自分の生まれた国や文化に対する深い理解や愛着」¹⁶⁾を根付かせている点である。自国の文化の重要性に対する意識、日本人としてのアイデンティティへのプライドを、果たしてわが国の学生はどれくらい持っているだろうか。今後は養成校において、将来保育者になる学生に日本文化の重要性を伝える必要がある。その場合にやるべきことは、「日本的な情緒を味あわせたり、鑑賞させたりするような「外からの強制的な押しつけ」¹⁷⁾ではない。「子どもたちの内にある音楽的な本来の芽を発芽させ育てる足がかりにする」¹⁸⁾ことが大切で、そのためには「わらべうたの線に沿った教材」¹⁹⁾が必要である。しかし、三村らの調査から10年ほど経過した今でも、統一された教材が存在しないのが現状であり²⁰⁾、その改善が課題である。さらに今後は、道徳科、図画工作、コンピュータや教育機器など、他の科目との連携を考えた上での可能性を広げていくことが望ましい。

5. おわりに

システムとして統一されているコダーイメソッドを紹介したが、これはあくまでもコダーイが自国の文化をハンガリーで発展させたものである。したがって、この音楽教育法を真似るだけでは、日本に根付くことはないだろう。しかし日本には、日本独自のわらべうたなど、素晴らしい伝承文化が存在する。これを活用して、音や言葉が持つ旋律の美しさを次世代に受け渡す教育が望まれるのではないだろうか。さらに、冒頭で述べた「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「個々の子どもの発達をどのように援助するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」の問いに答えるものとなり、領域「表現」と小学校科目「音楽」とを繋ぐ教材として、音楽の表現・感受や理解が深められるのではないだろうか。コダーイは、「音楽は万人のもの」と考え、「音楽ぬきに完全な人間はありえない」²¹⁾と説いた。かつて古代ギリシアがそうであったように、一

般教育のなかで音楽が中心的な役割を担うべきではないだろうかと考えられる。

【引用文献】

- 1) 幼稚園教育要領(平成29年3月公示) 第2章 総則 P33
- 2) 三村真弓・吉富功修・北野幸子:ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム-就学前教育から小学校1年生への系統生に着目して-, 広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XX、1、2008.
- 3) 無藤隆・吉永早苗:子どもの音感受の世界、萌文書林、186、2016.
- 4) 三村真弓・吉富功修・北野幸子:ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム-就学前教育から小学校1年生への系統生に着目して-, 広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XX、2、2008.
- 5) 三村真弓・吉富功修・北野幸子:ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム-就学前教育から小学校1年生への系統生に着目して-, 広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XX、11、2008.
- 6) 三村真弓・吉富功修・北野幸子:ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム-就学前教育から小学校1年生への系統生に着目して-, 広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XX、10、2008.
- 7) 三村真弓・吉富功修・北野幸子:ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム-就学前教育から小学校1年生への系統生に着目して-, 広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XX、11、2008.
- 8) 幼児の音楽教育/音楽教育研究協会、62、2009.
- 9) サライ美奈:ハンガリー たっぷりあそび 就学を見通す保育、かもがわ出版、114、2014.
- 10) サライ美奈:ハンガリー たっぷりあそび 就学を見通す保育、かもがわ出版、138、2014.
- 11) サライ美奈:ハンガリー たっぷりあそび 就学を見通す保育、かもがわ出版、122、2014.
- 12) サライ美奈:ハンガリー たっぷりあそび 就学を見通す保育、かもがわ出版、120、2014.
- 13) サライ美奈:ハンガリー たっぷりあそび 就学を見通す保育、かもがわ出版、122、2014.
- 14) 津田奈保子:幼児期の「創造的音楽づくり」を支える音楽活動について、大阪芸術大学短期大学部紀要41、180、2017.
- 16) サライ美奈:ハンガリー たっぷりあそび 就学を見通す保育、かもがわ出版、128、2014.
- 17,18,19) 小泉文夫:子どもの遊びとうた、草思社、1986
- 20) 三村真弓・吉富功修・北野幸子:ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム-就学前教育から小学校1年生への系統生に着目して-, 広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XX、1、2008.
- 21) 幼児の音楽教育/音楽教育研究協会、62、2009.

【参考文献】

- 15) 石川ますみ・重松悠希:豊岡短期大学 紀要13号、64、2016.